

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	17-005	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Prevalence of 12-Month Alcohol Use, High-Risk Drinking, and DSM-IV Alcohol Use Disorder in the United States, 2001-2002 to 2012-2013: Results From the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions. USにおける2001-2002年と2012-2013年における飲酒者割合・多量飲酒者割合・アルコール依存症割合: the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions 調査より		
執筆者		
Grant BF, Chou SP, Saha TD, Pickering RP, Kerridge BT, Ruan WJ, Huang B, Jung J, Zhang H, Fan A, Hasin DS.		
掲載誌		
JAMA Psychiatry. 2017 Sep 1;74(9):911-923. doi: 10.1001/jamapsychiatry.2017.2161.		
キーワード		PMID
飲酒者割合、アルコール依存症、国民調査、経年変化		28793133
要 旨		
目的: 信頼性・妥当性の高い飲酒・多量飲酒・アルコール依存(DSM-IV AUD)に関する経時的データがないことは公衆衛生が発する情報と実情とのギャップにつながってしまう。そこで、2001-2002年から2012-2013年までの国の既存データに基づき、12か月飲酒・12か月多量飲酒・12か月アルコール依存(DSM-IV AUD)・飲酒者におけるDSM-IV AUD・多量飲酒者におけるDSM-IV AUDを記述することを目的とした。		
方法: 2つのUSにおける国民調査(2001年4月から2002年6月まで実施されたthe National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditionsと2012年4月から2013年6月まで実施されたthe National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions III)における面談調査によるデータが用いられた。統計解析は2016年11月から12月までに行われた。アウトカムには12か月飲酒・12か月多量飲酒・12か月DSM-IV AUDが用いられた。		
結果: 対象者は、the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditionsでは43,093名、the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions IIIでは36,309名であった。2001-2002年と2012-2013年において、12か月飲酒・12か月多量飲酒・12か月DSM-IV AUDの割合はそれぞれ、11.2%・29.9%・49.4%増加していた。(具体的な割合は、12か月飲酒は65.4%(95%CI, 64.3%-66.6%)から72.7%(95%CI, 71.4%-73.9%)、12か月多量飲酒は9.7%(95%CI, 9.3%-10.2%)から12.6%(95%CI, 12.0%-13.2%)、12か月DSM-IV AUDは8.5%(95%CI, 8.0%-8.9%)から12.7%(95%CI, 12.1%-13.3%)であった。)増加の割合は、社会要因によって有意差がみられた。増加割合が最も高かったのは、女性・高齢・少数民族・低教育歴・低所得であった。12か月飲酒者におけるDSM-IV AUD・12か月多量飲酒者におけるDSM-IV AUDの割合も同様に増加の傾向がみられた。(具体的な割合は、12か月飲酒者におけるDSM-IV AUDでは12.9%(95%CI, 12.3%-17.5%)から17.5%(95%CI, 16.7%-18.3%)、12か月多量飲酒者におけるDSM-IV AUDでは、46.5%(95%CI, 44.3%-48.7%)から54.5%(95%CI, 52.7%-56.4%)。		
結論: USの国民において、12か月飲酒・12か月多量飲酒・12か月アルコール依存(DSM-IV AUD)の増加がみられたこと、そして、特に女性・高齢・少数民族・低教育歴・低所得の層で増加割合が高かったことは公衆衛生の面から重要な問題といえる。今回の結果は飲酒に関連する合併症などにも重要な情報となることが考えられる。		